

【第5次津島市総合計画】施策評価シート(2024年度)

施策コード	42
-------	----

まちづくりの方針	4 交通・都市基盤・水環境
施策	2 公共交通
施策のめざす姿	それぞれの目的や行先に応じて、最適な移動手段で、安心して快適に移動することができるようになっていきます。

まちづくり指標	現状値 (2019年度)	実績値					目標値	
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度	2030年度
公共交通の利便性の向上に満足している市民の割合(%)【企画政策課】	15.2	—	—	—			20.0	28.0
ふれあいバスを利用している市民の割合(%)【企画政策課】	21.5	—	—	—			25.0	30.0

施策の方針	担当課	実績・成果
		今後の方向
1 交通ネットワークとモビリティサービスの充実【重点】	企画政策課	公共交通会議において、公共交通事業者等と情報共有を図ることができた。 生活に必要なまちの機能を結ぶ移動手段のネットワーク化の推進のため、関係機関等と連携を行う。
2 コミュニティバスの利用促進【重点】	企画政策課	新型コロナウイルスの感染拡大により、巡回バス利用者はピーク時より減少しているが、校外学習時にコミュニティバスを利用してもらうなど、利用促進を図ることができた。また、バスロケーションシステムの活用等により利便性向上を図ることができた。 令和5年度に実施した巡回バス等(公共交通)検討支援業務の調査結果や、今後開催予定の巡回バス検討委員会での意見等を踏まえ、利用者のニーズに合わせた運行体制を検討する。
3 広域的な交通ネットワークの形成	企画政策課	JR永和駅に設置した巡回バスの停留所の利用者数は増加しており、市外への移動に対するニーズにこたえることができた。 海津市のコミュニティバス海津津島線の乗り入れを承認し、令和5年10月より運行が開始された。 引き続き関係機関と連携しながら、快適な公共交通サービスの提供に努める。

総括評価	施策のめざす姿の達成状況	新型コロナウイルスの影響により、巡回バス利用者はピーク時よりも減少しているが、最もその影響が大きかった令和2年度と比較すると回復傾向である。巡回バスは、市民の移動手段としてなくてはならないものであり、バスロケーションシステムの活用等により利便性向上を図っている。	評価 B
	施策のめざす姿の達成に向けて今後必要なこと	市民が安心して快適に移動することができるよう、巡回バスの更なる利便性の向上が求められている。そのため、巡回バス車両の更新時期を見据え、令和5年度に実施した巡回バス等(公共交通)検討支援業務の調査結果や、今後開催予定の巡回バス検討委員会での意見等を踏まえ、利用者や市民にとって最適な運行形態を検討する。	方針 継続